

ボタニガード水和剤のブロー散布によるトマトのコナジラミ類の防除技術の検証

要約

ボタニガード水和剤のブロー散布によって、コナジラミ類の密度を低く維持できた。また、散布の際に用いるブローの噴射口を改良したことで、より生長点付近の上位葉へ粉体の付着も確認され、密度抑制効果に寄与したと考えられる。

○ 展示のねらい

近年のトマト栽培においては、化学農薬の散布を中心にコナジラミ類の防除に取り組んできたが、抵抗性の発達により、防除が困難になっている。そこで、抵抗性の発達リスクの少ない生物農薬（ボタニガード水和剤）を小型送風機を用いて、粉体のまま散布（ブロー散布）することによるコナジラミ類の密度抑制効果を検証した。



写真 ブロー散布の様子

○ 主な成果

- ・定植2ヶ月後（10月21日）から、ボタニガード水和剤を定期的にブロー散布で処理した結果、年内についてはコナジラミ類の密度を低く維持する結果となった（図）。
- ・ボタニガード水和剤の処理前に、①前作のコナジラミ類を持ち越さない、②定植後14日前までのベリマークSCの灌注処理や気門封鎖剤等の定期的な薬散を徹底したことで、密度を低く維持した状態から処理を開始することができた。
- ・処理4回目以降は、生産者によって噴射口を改良したことで、より生長点付近の上位葉にも粉体の付着が確認され、密度抑制効果に寄与したと考える。
- ・処理日付近の日平均湿度は80%前後確保されており、有効菌の定着については問題ないものと考えられた（データ略）。

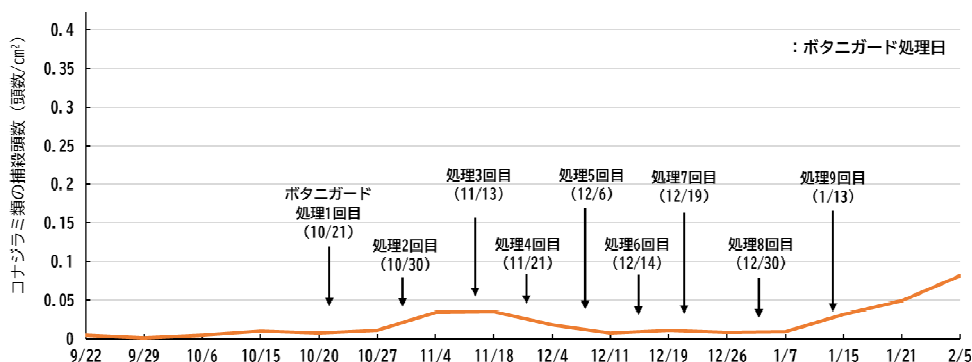


図. コナジラミ類の発生状況（黄色粘着板1cm²あたりの捕殺頭数）とボタニガードの処理日

○ 今後の方向性

薬剤コストや処理時間の観点から、ネットや開口部周辺の株に対してスポット的に処理することで、コナジラミ類の密度を全面処理と同様に抑制することが可能であれば、より普及性は高くなるものとする。

実施機関：下都賀農業振興事務所経営普及部 TEL 0282-24-1101 実施場所：壬生町

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315